

泥だんご作り

園庭遊びをすると、「鬼ごっこやろう!!」と元気いっぱい走っていた子もいれば、ままごとや園庭に水を流し、水の流れを止める壁作りあそびやだんご作りをして自分のやりたい遊びを子ども達はしていました。



ある日、泥だんごの絵本を保育室で見つけました。そこには“ピカピカ泥だんご”という文字があり、興味を示した子ども達が 🧒 🧒 「泥だんご作りたい!」と元気いっぱいに園庭に出て行きました。

初めは砂場の土を水で濡らし、丸めていました。砂場の砂に水を混ぜ、泥だんごを作ってもすぐに崩れてしまい、 🧒 「また壊れたよ」と残念そうに言っていました。すると、 🧒 「そーいえば、いい土がある!!」という声がしました。

普段のままごとなどの遊びから、粘り気の強い土がある事に気付いていた子どもが教えてくれました。

🧒 「ネバネバしているってことは、すぐに崩れない!!」と、その土なら崩れない泥だんごが作れるかも!! という流れで泥だんご作りが始まりました。



“粘り気の強い土があるのは、ブランコ前の土”という友達からの情報を聞いて、ブランコ前に子ども達は集まります。水で少し土を濡らし、スコップで土を掘ると、今までの土とは違い、水で濡れた土が固まった状態で手に乗り、👦「うわ！なんか気持ちいい」と言っていた。保育者が「砂場の土とどう違う？」と聞くと、👦「砂場の方は、ザラザラしていて、水で濡らしても手から落ちるけど、ブランコ前の土は硬いから手から落ちにくい」と土の違いに気付いていたようでした。

丸い泥だんごが作りやすいことから子ども達は、夢中になって土を濡らし、手に乗せ両手で握り、丸めていました。



しばらくすると、👦「次はどうするのだろう。あの本を見てみよう」とピカピカ泥だんごの作り方が載っている本を読むことになりました。



「今は“2”まで来たから、
次は“3”か」

次は、“乾いた土をつけてコロコロ転がす”と書いてありました。今度は園庭の中で、サラサラしている乾いた土を探すことになりました。



「ここ、サラサラな土が沢山あるからいいんじゃない？」という友達の声に子ども達が集まり、自分で作った泥だんごに乾いた土をつけています。

段々と出来上がってくる泥だんご。しかし、作っている最中にヒビが入り、割れて壊れてしまうことや中々思い通りに作れずに諦めてしまう子もいました。その時は「もう作らない」と違う遊びに行ってしまうも、どこかで“また作りたい”“もう一回やってみよう”と思う気持ちがあり、数日経った遊び活動中に「また作る！」と繰り返し遊ぶ姿も見られました。その際は、上手く作れている友達に「どうやったらうまく出来た？」とコツを聞く様子が見られたり、反対に友達に対してアドバイスを送る姿もありました。



粘り気の強い土で作った
泥だんご

水が多すぎると粘り気の強い土でも丸くならないので、水の量も大切と言う事が分かります。



作った泥だんごを袋に入れてしばらく寝かし、布で磨く作業があったり、“ピカピカの泥だんご”を作るには集中力と粘り強さ、力加減など一つの遊びでも様々なことに意識をして作る物だと子ども達と一緒に作ってみて感じました。

子ども達同士、言葉でのやり取りを交わしながら同じ目的をもってじっくりと土、水、砂と向き合い、自分の作りたい物をどう作るのかを考えながら夢中になって取り組んでいました。ピカピカ泥だんごを作るまでいけなかった子どもも多いので、2学期以降、ピカピカ泥だんご博士を目指して今後も自然物と向き合って遊んでいければと思います。



小さな石が入り、ゴツゴツしていますが、子ども達と一緒に作った泥だんごです。
次は、小さな石が入らないようにするにはどうするか…考えたいと思います。